

## 着物と私(8)

## 「外国人の目で見ると日本の着物」

劉 征



今日までの留学生生活を顧みると、来日当時から日本の生活に慣れるまでの間が本当に大変だったことを思い出します。なぜならば、留学というものは、観光と違って、その国での生活が必要不可欠です。したがって、ただ学術的な専門知識だけを追い求めれば良いというわけではなく、それ以外に日本の文化や日本人の考え方を基盤とした生活習慣を身につけなくてはなりません。そこで、私は折角日本に来ているので、やはり一日でも早く日本での留学生活に慣れたいと思い、外国人向けの様々なイベントに参加しました。それらは、外国人を対象とし、日本のマナーを紹介するマナー講座や日本の伝統文化を紹介する文化体験教室というようなものでした。私はこれらの行事に参加するうちに、少しずつ日本の文化を理解してきたような気がしました。そんな折に、ひとつの興味深い講座に出会うこととなります。それは外国人向けの着物着付け教室というものでした。

まず、その着物着付け教室で、初めて本物の着物に触れてあまりの手触りの良さに驚きました。その繊細で滑らかな肌触りを視覚に訴えかけるかのような色彩模様は、言葉では表現できないほどの美しさで、まるで風景画のようです。その瞬間からもう日本の着物に魅了されていました。それから後、私は着付けを学びながら、着付け教室に通う仲間たちとともに、着物展示会や着物染色ツアーなどに足を運ぶようになりました。着物ショーにも参加したことがあります。着物との出会いから、私は着付けを通して、日本人のマナー、立ち居振る舞い、さらには日本の着物の歴史まで学ぶことが出来ました。また、できれば将来自分のオーダーメイドの着物を作りたいとまで思うよ



うになりました。

近年日本では、洋服が一般化していますが、それでもやはり日本女性には着物がお似合いだと思います。そもそも着物は、歴史の中で受け継がれ育まれてきた、日本が世界に誇るべき「伝統文化」であり、日本の民族衣装のひとつでもあります。また、着付け教室の受け売りになりますが、着物を着ることにより、日本女性の体型をもっと美しく表現することができるそうです。さらに私自身の体験をふまえてのことですが、着物を着ると、周囲への思いやりや、優しさが、自然に表れます。つまり、着物は心の美しさを表現する衣服とも言えるのではないのでしょうか。

最後に、中国人の私から皆さんにアドバイスをさせていただきたいと思います。

「さらなる美しさを追求するならば、まずは着物に触れることから始めてみませんか。」

りゅう せい (大学院研究生)